

令和 8 年度

地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 地球温暖化対策事業者の概要

（1）事業者の類別

類別	（類別の説明）
I 類	I 類 A事業所のみを有する特定事業者
	II 類 B事業所を有する特定事業者(III類の事業者を除く)
	III 類 C事業所を有する特定事業者
	IV 類 任意事業者

（2）地球温暖化対策事業者

事業者名		株式会社アレフ	
所在地		北海道札幌市白石区菊水6条3丁目1-26	
事業者番号		2019	
計画書評価制度における基準年度		令和6年度(2024年度)	
燃料等使用量の原油換算の合計量（前年度）		1,368	kL／年
大規模小売店舗面積（単独で1,500KL未満で延床面積10,000㎡以上の事業所）			㎡
産業分類名（中分類）		76 飲食店	
分類番号（中分類）		76	
事業活動の概要	事業内容		ハンバーグレストラン「びっくりドンキー」などの飲食店を全国に展開
	区分		企業
	前年度	資本金	100 百万円
	前年度	従業員数	3,923 人
商標又は商号（連鎖化事業者のみ）		びっくりドンキー	

（３）県内に設置している事業所

（自動転記）

事業所 種別	事業所 番号	事業所名	前年度の原油 換算エネル ギー使用量 (kL)	前年度の規模 判定エネル ギー使用量 (kL)
A、Bテナント等事業所				
A	201900	びっくりドンキー三郷店	1,368	
B、C事業所				
合 計			1,368	

（４）公表方法

○	インターネット利用による公表	ア ド レ ス	https://www.aleph-inc.co.jp/company/download/
	事業所での備え置き (複数可。書ききれない場合 は別紙としてください)	閲 覧 場 所 1	
		所 在 地 1	
		閲 覧 可 能 時 間 1	
		閲 覧 場 所 2	
		所 在 地 2	
		閲 覧 可 能 時 間 2	
	その他		

（５）公表の担当部署

名 称 (複数可)		連 絡 先	
		電話番号	E-mailアドレス※
1	管理本部広報担当	011-824-0729	
2			
3			

※ 事業者のアドレスとする(個人が特定できるアドレスは記入しないこと)

2 地球温暖化対策推進における事業者の基本方針

私たちは
持続可能な循環型社会に貢献することを目的に
地球環境への負荷の低減のため
全員がその日常における行動を通し
環境を守り、育て、回復させ、
環境と共生する文化の体現者となることを目指します。

3 地球温暖化対策における事業者の推進体制

本部に省エネルギー推進部署（SDGs推進部）を設置し、店舗・事業所の省エネルギー推進に努めている。（別表1 地球温暖化対策における推進体制 参照）

4 計画期間中における事業者の温室効果ガス排出量（事業所合算）の推移

	CO ₂ 換算（t-CO ₂ ）				
	令和7年度 （2025年度）	令和8年度 （2026年度）	令和9年度 （2027年度）	令和10年度 （2028年度）	令和11年度 （2029年度）
目標設定ガス	953				
その他ガス					
温室効果ガスの 合計	953				

5 各事業所の計画

別紙 事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告 のとおり

令和 8 年度

事業者番号

2019

事業所番号

201900

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	A … 規模判定エネルギー使用量が年間1,500kL未満の事業所（合算）
A	

(2) 事業所及び事業内容

代 表 事 業 所 名	びっくりドンキー三郷店		前年度における事業所数	18
代 表 事 業 所 所 在 地	市 区 町 村	三郷市		
	字 ・ 地 番	三郷3丁目17番4号		
当該事業所を含む事業所の名称 （※Bテナント等の場合のみ記入）				
産 業 分 類 名 （ 中 分 類 ）	76 飲食店			
分 類 番 号 （ 中 分 類 ）	76			
事 業 活 動 の 概 要	ハンバーグレストランびっくりドンキーをはじめとするレストランチェーン。県内にびっくりドンキーが17店。それぞれの店舗に食材を供給するセントラルキッチン「埼玉工場」が1ヶ所操業してい			

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第4計画期間の削減目標

計 画 期 間		7	年度	～	11	年度
削減目標	目標設定ガス （必須）	基準となる 排 出 量		t-CO2	基準となる 原 単 位	0.2619 t-CO2/百万円
		2024年（令和6年）度の売上あたりCO2排出量0.2619t-CO2/百万円に対し、年平均1.0%ずつ（毎年約0.0026t/百万円）削減する。				
		その他ガス				

(2) 第5計画期間の削減目標

計 画 期 間		12	年度	～	16	年度
削減目標	目標設定ガス （必須）	基準となる 排 出 量		t-CO2	基準となる 原 単 位	
		その他ガス				

事業所リスト

番号	事業所名	所在地
1	びっくりドンキー三郷店	三郷市三郷3丁目17番4号
2	びっくりドンキー新所沢店	所沢市緑町3丁目18番3号
3	びっくりドンキー川越店	川越市かし野台2丁目21番地6
4	びっくりドンキー大宮三橋店	さいたま市大宮区三橋2丁目668番地
5	びっくりドンキー熊谷店	熊谷市石原464-4
6	びっくりドンキー下戸田店	戸田市下戸田2丁目14-10
7	びっくりドンキー上尾緑ヶ丘店	上尾市緑ヶ丘3丁目86番地1号
8	びっくりドンキー新座店	新座市野火止4丁目4-40
9	びっくりドンキー上福岡店	ふじみ野市ふじみ野2丁目1番5号
10	びっくりドンキー浦和埼大通り店	さいたま市桜区栄和3丁目26番18号
11	びっくりドンキー鶴ヶ島店	鶴ヶ島市脚折5丁目5番31号
12	びっくりドンキー川口伊刈店	川口市芝東町16番24号
13	ポケットキッチンイオンモール羽生店	羽生市川崎2-281-3 イオンモール羽生SC3F
14	ポケットキッチンイオンレイクタウンmori店	越谷市レイクタウン3丁目1-1 イオンレイクタウンmori3F
15	ポケットキッチンイオンモール川口店	川口市安行領根岸3180 イオンモール川口2F
16	びっくりドンキー越谷店	越谷市七左町5丁目116-1
17	びっくりドンキー春日部店	春日部市緑町5丁目8番地18
18	埼玉工場	久喜市清久町45-1
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

※ 年度の途中で開設又は閉鎖された事業所も、それぞれ1件として計上します。

3 事業所の温室効果ガス排出量

（1）計画期間のエネルギー使用量の推移

	計画期間				
	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
原油換算エネルギー使用量(kL)	1,368				
規模判定エネルギー使用量(kL)					

（2）計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO₂換算（t-CO₂）

		計画期間				
		令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
目標設定ガス	基準	953				
	前年度からの増減（％）	—				
	基準となる排出量に対する削減率（％）					
その他ガス	目標設定ガス以外のCO ₂					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化硫黄					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		953				

（3）計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況（目標設定ガス）

CO₂換算（t-CO₂/指標）

		計画期間				
		令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
目標設定ガス排出量原単位	基準	0.0734				
	前年度からの増減（％）	—				
	基準となる原単位に対する削減率（％）	72.0				
活動規模の指標単位		12,988.00				
売上高	百万円					

（４）目標設定ガス排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和 7 年度 (2025 年度)	CO2排出量が約70%削減された。原因は2020年より購入していたCO2ゼロの電力が、第4計画期間より算定されるように制度変更があったため。 エネルギー低減の活動として、2024年度に取得したISO50001認証を活用し、空調や冷凍機の温度管理や調整を実施し、電力使用量を削減している。
令和 8 年度 (2026 年度)	
令和 9 年度 (2027 年度)	
令和10年度 (2028 年度)	
令和11年度 (2029 年度)	

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区分 番号	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	ISO50001認証に則り、エネルギー使用 量管理の定例会議を実施	R8		
2	130200	空気調和設備・換 気設備	13_空気調和設備の効 率管理	中間期の外気導入量を適切に調整する	R8		
3	140300	給湯設備、給排水 設備、冷凍冷蔵設 備、厨房設備	14_冷凍冷蔵設備及び ちゅう房設備の管理	デフロスト回数を適切に調整し、回数が 増えすぎないようにする	R8		
4	110100	一般管理事項	11_推進体制の整備	店舗のエネルギー管理標準を毎年店舗と 共有し、実施確認をする	R8		
5	120200	熱源設備・熱搬送 設備	12_冷凍機の効率管理	工場内冷凍庫4か所の設定温度の変更に より、過度の冷却を防ぐ	R8		
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

※ 「業務部門」は11から18番台、「産業部門」は31から49番台から選択してください。

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価
（※希望者のみ記載）

自由記述欄

- ・ 2020年度途中より、調整後排出係数が0t-CO₂の電力に変更した。年間電力購入量の約77%のCO₂排出量を0とする事ができた。テナント等、変更が難しい事業所への対策を進め、現状よりもさらにCO₂排出量を削減できるようにしていく。
- ・ 上記内容を2025年度も継続し、CO₂排出係数の低い電力購入を継続している。
- ・ CO₂排出量低減だけではなく、冷蔵庫等の脱フロン化も開始している。一部の店舗で自然冷媒を使用した冷蔵庫の導入を開始している。
- ・ 上記内容を2025年度も継続し、脱フロン化を継続している。
- ・ 2024年度にエネルギーマネジメント規格ISO50001認証を取得した。エネルギー管理の定例会議を開始し、エネルギー低減策の進捗管理と成果共有、毎月のエネルギー使用状況の確認を実施。
- ・ ISO50001認証によるエネルギー低減の活動として、冷凍庫4か所の設定温度変更を実施した。過度の冷却を防ぎ、エネルギー使用量を低減した。
- ・ 上記内容を2025年度も継続し、エネルギー使用量を低減している。